

人に魅せたい街づくり

～ 茨城県建築士会桜川支部有志のボランティア街並み保存活動 ～

茨城県建築士会桜川支部の有志のみなさんが、専門的な知識・技術を活かして「人に魅せたい街づくり」をテーマに、ボランティアによる、真壁地区の歴史的景観に配慮したブロック塀の修景活動を展開しています。

住みやすく・美しく・情緒豊かな街づくり

桜川市真壁地区の建物は、江戸末期から昭和初期のもので、多年にわたり『歴史的街並み』を形成しています。茨城県建築士会桜川支部の有志（以下「建築士会桜川支部」という。）のみなさんは「人に魅せたい街づくり」をテーマに、真壁地区の歴史的街並みを、住みやすく・美しく・情緒豊かな街並みにするために、茨城県建築士会の会員、地元まちづくり団体、住民の皆様などの協働により、まちづくりワークショップ（体験型講座）を開催。ここで多くの皆様から出された意見を基に、建築士会の活動指針の策定や、各方面への提言活動を行っています。

景観に配慮したブロック塀の修景事業

まちづくりワークショップで、真壁地区の歴史的な景観に合わせたブロック塀の修景に関する意見が出されたことをきっかけに、平成19年、景観に配慮したブロック塀の修景事業をスタートさせました。

この既存ブロック塀の修景

様々なまちづくり活動が認められ各種表彰

建築士会桜川支部は、これまでの様々な活動が認められ、平成19年度には、茨城県から「まちづくりグリーンリボン賞」を受賞。また、平成20年に国土交通省が主催するまちづくり月間で「まちづくり功労者」として国土交通大臣から表彰を受け、加えてまちづくり月間関連行事の住まいのまちなみコンクルの『住まいのまちなみ優秀賞』を受賞しています。

建築士としての特性を活かした社会活動

その他、建築士としての特性を活かした社会活動として、次の活動を行っています。

- ・木造住宅耐震診断士

阪神・淡路大震災をはじめとする近年の地震被害の調査により、地震による死者の90%は建物の倒壊が原因であることが分かっています。現在、建築士会桜川支部には、木造住宅耐震診断士が12人おり、市と協働で木造住宅の耐震診断事業を進めています。

- ・被災建築物応急危険度判定士

地震が起きた際の二次災害を防止するために高い効果を

では、会員が知恵を出し合い、ブロックの強度・補強を兼ねた構造を実現した杉板塀にして、施工主さんをはじめ近隣の方々からも好評です。

また、ブロック塀の修景活動では、杉板塀にしたあとの防錆剤の塗装を、近所の子供たちや住民の皆さんと行うことで、修景作業をみんなで共有し、地域の景観への意識向上に役立てています。これらの活動は、新聞などにも掲載され、市内はもちろん県内でも話題を呼んでいます。

全国のまちづくり団体と交流

本年2月には、全国各地で地域づくり活動に取り組む方々が、全国レベルの研修・情報交換を行う「第25回地域づくり団体全国研修交流会茨城大会」の分科会に、主体として参画しました。

「人に魅せたい街づくり」まずは実行「あなたも体験 匠塾」と銘打って、参加者に、板塀化による街並みの修景作業を通して、建築士ならではの視点・知識・技術を活かしたまちづくり体験をしていただきながら、全国のまちづくり団体と交流を深めました。

発揮しているのが、専門家による迅速な建物の応急危険度判定です。

建築士会桜川支部では、被災建築物応急危険度判定士が20人いて、全国で発生する地震災害への支援や地元で地震が発生した際の活動に備えています。

- ・違反建築パトロール

安全で安心に暮らせる建築物を設計することは、建築士の使命と考え、茨城県や桜川市と協働で違反建築パトロールを行い、適切な建築の指導に貢献しています。

今後の活動方針

「住みやすく・美しく・情緒豊かなまちは、みんなで造っていくものです。それには、地域住民の皆様の意識改革が不可欠です。そのために、わたしたち建築士は、まずは実行し、実例（見本）を造っていきたく考えています。

これからも、建築士としての知識と技術を活かし、現在の取り組みをさらに発展させてまいります。」と、建築士会桜川支部の武村支部長は話していました。



建築士会桜川支部の有志のみなさんが「第25回地域づくり団体全国研修交流会茨城大会」に主体参画。「人に魅せたい街づくり」～まずは実行「あなたも体験」匠塾～と銘打って、参加者に建築士ならではの視点・知識・技術を活かしたまちづくりを体験してもらいながら、全国のまちづくり団体と交流を深めました。



建築士会桜川支部では、大規模な地震により、傾くなどの被害を受けた建築物が、余震による第二次災害を引き起こさないよう、被災建築物の危険度を判定する「被災建築物応急危険度判定士」を地震被災地に派遣する社会貢献活動を行っています。